

## 保土ヶ谷工場の再整備について

ごみ処理を将来にわたり安定的に継続していくため、休止中の保土ヶ谷工場を再整備します。再整備にあたっては、3つの視点から進めていきます。

### 1 保土ヶ谷工場再整備の3つの視点

#### (1) 安全で安定したごみ処理を行う焼却工場

##### ① 処理能力

これまでの保土ヶ谷工場と同等の1,200トン/日とします。

##### ② 環境保全対策

排ガスや排水の処理に高性能な設備を導入し、しっかりとした環境保全対策を講じます。

##### ③ 施設の強靱化

大規模災害にも耐えうる施設とし、長期間にわたる停電や断水などの非常事態発生時においても、ごみの焼却を行います。

#### (2) 地域に根ざした焼却工場

##### ① 大規模災害への備え

災害による長期間の停電発生時において、ごみの焼却で得られる電気を活用するなど、地域の皆様の安全安心につながる方策を検討します。

##### ② 環境学習の拠点

子どもから大人まで、環境について広く楽しく学べるよう、市民の環境学習の拠点となる施設にします。

##### ③ 熱の有効活用

ごみの焼却により発生した熱について、市民サービスの向上に資するよう有効活用します。

#### (3) 脱炭素社会の一翼を担う焼却工場

##### ① 環境にやさしいエネルギーの創出

高効率な発電設備の導入やごみの性状に合わせた最適な運転管理により、環境にやさしいエネルギーを最大限創出します。

##### ② 創出したエネルギーの活用

創出した環境にやさしいエネルギーを市域内で活用することで、脱炭素社会の実現と市内経済の活性化につなげます。

##### ③ 創出したエネルギーの蓄え

エネルギーをより効果的に使用できるよう、蓄電池設備の導入を検討します。災害時には、蓄えた電気を非常用電力として活用します。

## 2 地域への説明

4月下旬に保土ヶ谷工場建設にかかる地域説明会を、工場近隣の保土ヶ谷区、南区、戸塚区の7つの連合自治会・町内会を対象に、計4回開催しました。

説明会では、老朽化した工場を解体し、景観に配慮した新しい工場の建設を進めてほしいというご意見や、工事中の騒音や、工場稼働後の煙突からの排ガス、国道1号線の交通渋滞などについて、生活環境への影響を心配する声を頂きました。

## 3 整備スケジュール（予定）

令和4年度は、事業者公募に向けた基本設計を行うとともに、再整備に必要な環境影響調査や土壌汚染調査などを行います。

また、再整備期間中においてもごみの収集運搬に支障をきたさないよう、新たな中継輸送施設の整備を行います。そのため、7月より一部の既存建物の解体に着手します。

